



メリハリがありすぎるのも問題  
細かいコトができないタイプ?

相変わらず問題児の坂東マサ。最初に復習としてパイロンなしでアクセルターンさせたんだけど、コレはしっかりとできた。でも、やはり大きな円になるとダメ。1周はなんとかできただけど、ミスの修正がまだできない。でも、イイところもあったぞ。スタート時のステアリングを切る量が小さく、そして直後のカウンター量も小さいんだ。それを何周も続けられれば完璧なんだけだな……。

◀いつものことだけ、オフのスピード的に操  
作することがあるぞ。長く続  
けられないって「ケ」。だから  
車のスピードを落とすのが  
いいよ。

◀フロントタイヤが  
やよりグリップしない  
論外。スタート直  
後からアンダーが出て  
おくよ。



最初はパイロンの間隔を10歩くら  
いに設定してみた。注意したいのは、  
パイロンが1本のときと同じくらい  
のカウンター量だと円は小さくなつ  
てしまうこと。だから、カウンター  
量を少し抑える必要があるんだ。  
それには「今どれだけリヤが出て  
いるか」とか、「それに対してどの程  
度カウンターを当てるのか」を体で  
覚える必要があるわけだ。

ドリフトを開始するときにステア  
リングを切る量も同じじゃダメ。大き  
きく切りすぎると一気にリヤが  
流れるので、必然的にカウンタ  
ー量も多くなる。だから、ステア  
リングはあまり切らないこと。

コレが重要!  
カウンターを当てるタイミ  
ングも今までより早くなる。  
「カウンターの量は少なく、タ  
イミングは早く」。この2つの  
ポイントをよく頭にたたき  
込んでおくように!

円の直径が大きくなり、カ  
ウンターは少なく、アク

出席番号1

### 坂東マサ



# 30歳から始めるドリフト修練塾



photo—岡 拓 report—佐藤 圭

撮影協力—相模湖ピクニックランド

### 今月の課題

## 定常円旋回

(パイロン2本)



前回はパイロンを1本置いて円旋回。今回はそのパイロンを2本に増やしてみたぞ。こう書くと「前と同じじゃん!」なへんて思うかもしれないけど、予想外の落とし穴が……!

セルを踏む量は今までと同じとすれば、クルマのスピードはどう変わっていると思う? よ。以前よりも高い速度でドリフトできるのは上達した証拠なんだけど、それだけに周囲への注意も必要にならざ。どんどん円の位置がズレてきて、気がついたらガードレールが目の前に! なんてのはシャレにならない。失敗したと思ったら、すぐブレーキを踏んで停止しよう。くれぐれも無理は禁物だ。

と、言葉にすると難しくないんだ  
けど、なぜか生徒2人はスマーズに  
できない。共通しているのは、パ  
イロンを意識しきつてことかな?  
そのせいでドライビングに集中でき  
ず、ステアリングとアクセルのタイ  
ミングがだんだん合わなくなつてしま  
うんだ。うん、克服するにはた  
くさん走り込むしかないのかな?

というワケで、今回は2人仲良く  
落第が決定。おいおい、教習所でい

つたらまだ第1段階だぞ! こんな  
ところがつまずいていたら、コース

に出る日はいつになることやら……。

まあ、2人の欠点はわかつたし、恐

らくこれがうまくできない人はみん

な同じ理由だと思う。

こうなつたら、次回の予定はもう

変更だ! 「オレも同じように失敗す

る」なんてキミ、次号を読んでもら

えれば必ずできるようアドバイス

するから、タイヤを用意して待つ

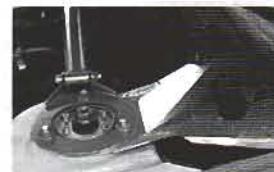
いてくれ!

チェック! タイヤをいたわる走り方って?



▲前も説明したけど、ドリフトの練習は適度に休憩することも大事! あまり連続で走り続けると、タイヤも消耗してしまう。まだ山は残っているのにもうバースト寸前だ。貴重なタイヤは最後までおいしく使うべし。

今まで優等生だった竹ちゃんだけど、今回はちょっと伸び悩み。リヤの振り出しが唐突だってこともあり、カウンターを多く当てているんだ。1周くらいなら問題ないんだけど、だんだん円が小さくなってしまって最後には止まってしまう。ステアリング操作も雑なのかもね。だったら「停止状態からスタートせず、パイロンのまわりを普通に走りながらリヤを出す」というのがいいかも。次回はこの方法で特訓させてみるぞ!



▲ボディ剛性が高められており、タイヤがやけに食うのも原因のひとつ。上手な人ならともかく、ビギナーには厳しいかも。



▲焦れば焦るほどスマーズなステアリングワークからかけ離れていく。そのせいでも、小さなミスが次第に大きくなるんだ。

出席番号2 竹ちゃん

小さなミスが積み重なって……  
ステアリング操作も雑だった!?





いったいどうなって  
しまうのか!?

予定では、次回のテーマは「8の字」だった。しかし、今回の課題をクリアしていないのに先へ進めるワケがない。ということで、次こそは「バイロン2本の定常円旋回」を完璧にマスターさせるぞ! それができたら、8の字にも挑戦させようかな。マサも竹ちゃんも時間を作ってコソ練したり、オイラが教えたクルマの欠点を直していくように。今回の遅れを取り戻すべくビシビシと指導するぜ!



次は日の字の  
予定だったが  
この様子じゃとても……  
ウ~ん、困ったや!?

先生とイチバン違う点? う~ん、やはりタイミングかな。運転はそれがすべてといつてもいいくらいだもんね。あとはリカバリーのうまさがまったく違う。ま、きっかけはわかったから次はできるんじゃないかな? そこさえ直せば差はないよ。人気はオレのほうが上だレ!』



CHECK!

### バイロンの間隔を 徐々に広く!

●ビギナーがいきなり大きな円でドリフトするのは、正直いって無理。まずはバイロン2本の間隔をクルマ1台分くらいに設定しよう。それができたらどんどんバイロンを離していき、20歩くらいの間隔でもキレイに回れるようになれば合格だ!

最後はコレくらいを目標に



最初はクルマ1台分が目安



「ムダな動作かなく、しかもムラもない。それが最大の差だろ? ん。ミスがないからいつまでも続けられる。オレはすべての操作がオーバーアクションだし、タイミングもテンポ遅いよな気がするな~。手と足がうまくシンクロしていないっていうのかな、そんな感覚だね」



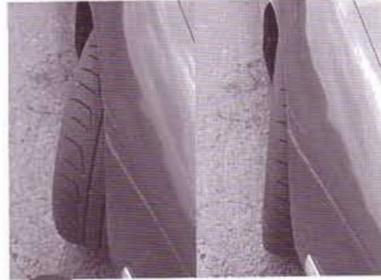
竹ちゃん

「ナゼできないんだろう?」と相談する坂東マサと竹ちゃん。チンコ先生の模範走行を見て運転の違いに気づくものの、なかなか実践はできないようだ。体が勝手に反応するようになるまで、ひたすら走り込みあるのみ!?

↓ チンコ先生とナニが違う?

小さな円

大きな円



CHECK!

### ステアリングを 切りすぎない!

●バイロンが1本の場合と2本の場合とでは、最初にステアリングを切る角度がこんなに違う。切る角度が多いほどカウンター量が多くなり、円は小さくなってしまうぞ。練習するときはこの写真を参考に。



# バイロンが2本に増えたら四苦八苦! やってるコトは同じなのに……ナゼ?

居残り決定!

すみません……

前回は  
できたのに……

